

世界金融危機とドイツの金融システム

静岡大学 居城 弘

① 世界金融危機とドイツにおける金融危機の深化

アメリカ発の金融危機は、瞬時にしてヨーロッパ、ドイツの金融危機へと波及・展開し深刻な影響を及ぼした。危機の拡大進化はI K Bドイツ産業銀行および一連のランデスバンクでの証券化商品投資での損失による経営危機から不動産金融大手ヒポリアルエステートの海外進出の失敗による経営不安の深刻化、さらにドレスナー、コメルツ、アリアンツなど大銀行、大手金融機関のサブプライム関連の証券化商品業務や、投資銀行・金融市場関連のトレーディング業務での赤字・損失拡大にまで及び金融システムに根底からの動揺・危機がひろがった。ドイツにおける危機深化の背景としては、90年代以降のEU統合、金融自由化・証券化の急速な進展、投資銀行業務をめぐる米欧の競争激化、金融のアングロサクソン化、大手金融機関主導の投資銀行・トレーディング・証券化商品業務の拡大が高いレバレッジ比率のもとで強行され、さらには対米証券投資や国際短期金融市場取引、中東欧新興諸国への進出などのグローバル戦略の活発化が指摘される。しかし金融危機においてドイツの大手金融機関が相次いで深刻な危機に見舞われたより根本的な背景の把握には、ドイツの金融システムに進行した構造変化の実態、とくに企業金融、銀行貸出および銀行収益の動向分析が不可欠である。

② ドイツの金融システムの構造変化の分析

1) 90年代から世界金融危機にいたる企業金融構造の特徴は、低成長・低投資率を反映し、調達総額の増加テンポの緩慢さ、内部金融比率の高さ、外部資金調達での銀行借入れの減少に現れている。ここで大企業部門と中小企業部門との顕著な違いが注目される。中小企業部門での銀行借入れの重要性に変化はないが、大企業部門では高収益による内部留保・自己金融化、銀行依存からの脱却の動きを強めてきただけでなく、大企業レベルでの独自の資金調達・運用行動を国際的な広がりの中なかで展開してきている。

2) 銀行貸出残高の伸びの停滞傾向は、ユーロエリアで定期的に行われている「銀行貸出調査」の結果からもうかがえる。低成長による資金需要の低迷、内部金融化、外部資金依存の低下など企業金融の構造変化に起因し、大企業向け貸出の低下が顕著であるが、中小企業分野では銀行信用は重要な調達源として、銀行との緊密な関係が維持され、この分野を主要顧客とする銀行セクター（貯蓄銀行、信用協同組合）は伝統的業務を基盤に着実な業績を挙げ、金融危機の直接の影響を免れている。このため金融構造の変化は大企業を主要顧客とした大手銀行や、ランデスバンク等融資貸出対象の縮小を余儀なくされた大手金融機関にもっとも大きな影響を与えたため、投資銀行業務や証券化商品など新たな業務分野の開拓・進出を強めたのである。3) 銀行収益の構成の変化にも、金融構造変化の影響は如実に現れており、このため投資銀行業務や金融市場トレーディング業務収益、海外業務収益への強い傾斜のゆえに、金融危機の勃発によってとりわけ深刻な打撃を大銀行や大手金融機関に与えざるを得なかったのである。